

豆列熱海温泉も條を海中に引出し
 しまりてやういふ人きはたはた
 作作をかた地蔵と云ふゆゑだん
 一後につちにまゐるん何のあいたり
 星夜六度とさびいひあまひを
 なく旅者のきいさうもこれなく
 天平勝堂中よりひきとてあ
 凡一有金〇はへたて屋あけ銅
 三鐵が乃このちりまんぢやうま
 いさうとさうぢやう
 よく様か茂汁入湯溜種も低く
 かきうひのゆふはくはせん
 中の山屋の清大藤より有極年
 久しきぢやうとおちやうやう
 としめははははははははははは
 内合傷あてはされず様よくはき
 序とてとるさうと日とて入湯
 作る様もはははははははははは

勅能

一せんき 一せんあや
 一の川け 一せん
 一ちやく 一せん
 一ちう風 一せん
 一たむ 一せん
 一たむ 一せん
 一ちみつ 一せん

其地をへやうしつ方極道と云ふ
 自著の地をへやうしつ方極道と云ふ
 一ちやくと云ふはなれはなれはなれ
 内合傷あてはされず様よくはき
 序とてとるさうと日とて入湯
 作る様もはははははははははは
 一ちみつと云ふはなれはなれはなれ
 内合傷あてはされず様よくはき
 序とてとるさうと日とて入湯
 作る様もはははははははははは
 一ちみつと云ふはなれはなれはなれ
 内合傷あてはされず様よくはき
 序とてとるさうと日とて入湯
 作る様もはははははははははは

豆列熱海温泉出張

江戸四市川岸通

熱海菴

橋井喜六郎

右温泉を度入

三十二支

同 一日入

百六十支

同 一四り

七支

同 三三枝

金計

樽賣 是指に付味みく